

第26号



実践女子大学
生活文化フォーラム

学びを止めるな！Ⅱ

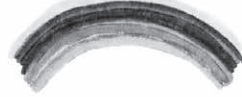
主任挨拶

- I 生活文化学科のカリキュラムデザイン
- II 初年次教育の学び
- III 学生と学生、現場と学生をつなぐ



第26号

実践女子大学

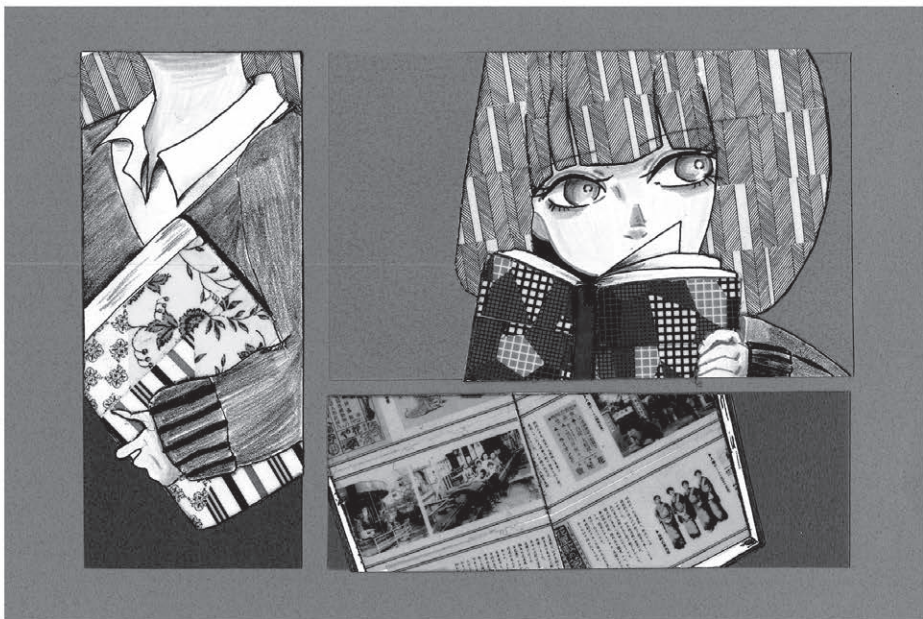


生活文化フォーラム

学びを止めるな！Ⅱ

主任挨拶

- I 生活文化学科のカリキュラムデザイン
- II 初年次教育の学び
- III 学生と学生、現場と学生をつなぐ



実践女子大学 生活科学部生活文化学科 2022年2月

■ 主任 挨拶



本学生活文化学科 主任 塩川 宏郷

指数関数のグラフのようにめきめきと右上がりになっているグラフの映像の次に、おめかしして旗を振っている世界の大運動会開催地の首長のテレビ映像を呆然とみている往診患者に對応中の医師の、そのうつろな瞳をこれまたお茶の間でテレビを通じてみているこの私、というこの光景はよその国ではない、この国のこの年の夏のとある夕べのことです。いったいなんの罰ゲームなのでしょう、それとも悪いジョークかできの悪いお笑い芸なのでしょう、そんな皮肉も言いたくなるような二〇二一年でありました。

衣食住をその研究テーマとする「生活科学」の中に、生活文化学科として「子育て」「教育」と「心」を中心とする教育が整備されて八年が経過しようとしています。

二〇二一年度は新型コロナウイルス感染症への対応に振り回された一年間でありました。Zoomを用いた会議やオンデマンドによる授業など、新たな大学教育のあり方についてトライアンドエラーを繰り返しながら自らの適性に向き合う作業が続いています。

「学び」のありかたは多様であつてよいと思います。大学に入學する前は、大教室でマイクを通じて流れる老教授の訥々とした講義を聴くというようなイメージを持っていた学生もいるでしょう。一方で、ごく少数の学生にマンツーマンに近い形で手取り足取り演習をするというタイプの授業に期待していた学生もいるはずです。しかし、思いがけない感染症の流行という事態から、オンラインで音声や動画をみることや、テレビ会議システムでパソコン越しに自分の調べたことを発表するというタイプを想像していた学生は少ないかもしれません。昼休みや空きコマ時間に友達とダべったり、時には途中で抜け出してキャンパス内外を散策するというような学生生活をイメージしていた人も、よもや大学構内に入れない、通学ができないという学生生活をイメージした人は少ないでしょう。しかし、この文章の冒頭のような状況にいたったこの国では、もはや「あり得ない」とはあり得ない「すなわち「なんでもアリ」というのが状態化していると言えるでしょう。望んでいた学びができない、学生生活を送ることができないということがわかりました。学生も多いでしょう。一方で、人前に出ると緊張して話せない、自分の持っているポテンシャルを十分だせない、思うようなパフォーマンスができないと感じている人が、オンラインによるマイペースな学習で多くのことを習得し知的好奇心をさらに高めることができたという例も枚挙に暇がないほどです。感染症の蔓延という非常事態が、新たな学びの方法を定着させるきっかけになっ

アルが行われた年になりました。個人的には、記憶力や考え方の柔軟性がそろそろ失われ始めている昭和世代にとつては、授業や教育内容そのものを捉え直す一大パラダイムシフトを経験する羽目になった年だったと言っても過言ではないと思います。生活文化学科は幼児保育・生活心理という二つの専攻を有しています。

幼児保育専攻には保育士・幼稚園教諭免許取得をめざす幼保コースと、幼稚園教諭・小学校教諭免許取得のための幼小コースがあります。子どもの減少に伴い縮小しつつある幼児保育・幼児教育の動向に立ち向かうべく、地域連携の充実や一人ひとりの学生の持つ特性に応じたきめ細かい指導をめざしています。また、優秀な小学校教員を輩出し続けることも本専攻の目標の一つです。

一方、生活心理専攻では、緩やかな関係にある三つのコースプログラム「心理専門職コース」「家庭科教員コース」「キャリア心理学コース」を用意しています。心理専門職コースは、公認心理師の国家試験受験資格につながる三十科目を整備し二〇一九年度からスタートしました。本コースの第一期の入学者は三年次となり、今年度は心理実習前の山場となる「心理演習」を履修しました。また、心理学を学びカウンセリングマインドを有する中学・高校の家庭科教員、さらに仕事や生活の場で発生する課題を心理学的な視点から分析できる職業人を養成することを主眼としています。これらのコースプログラムは入口も途中の道筋も出口も「緩やかな」関係にあり、学生たちはコ

たと考えることもできます。

大学は、いかなる状況にあつても学びを止めることはできません。「対感染症シフト」二年目の今年は、まさに逆境のその逆手を取って、オンライン授業のいいとこ取りを各学科の創意工夫で行っています。施設での実習はどうしても対面で行う必要がありますが、フィールドワークや訪問見学などは施設との連携のもとでオンラインを取り入れる工夫もしています。この点では、実習の施設のみならず大学の外の世界との連携、地域との連携の重要性を再認識する機会にもなりました。オンラインと対面とをうまく配分するやり方はまだ試行錯誤の段階ですが、新しい学びのあり方として今後も検討を続けていく必要があるでしょう。もちろん、キャンパスライフを通じてリアルな人間関係を体験することも重要な大学教育の要素です。場を共有すること、体験を共有することがコミュニケーションの最も基本的な土台です。この土台の上に意味や意図を共有することがコミュニケーションの発達につながります。

生活文化学科はどのような時代、どのような状況にあつても、学生の多様な学びを支えます。資格取得だけでなく、学生の知的好奇心に応え、さらに社会人としての姿勢を自ら醸成するよう支援します。対面授業、オンライン授業、アクティブラーニング、演習、実習を柔軟に行い、「生活」「子ども」「心」さらに「環境」「関係性」という視点を持つことを重視します。今年度はこの「学びの多様性」を学科運営の方針したいと思います。

生活文化学科の カリキュラムデザイン

- 実践入門セミナー（一年次前期 必修科目） …………… 6
島崎 あかね 本学生活文化学科 教授
- 『基礎演習 I』（大学一年後期必修科目）における
「学びの歩み」とカリキュラムデザインの骨格形成 …… 8
南雲 成二 本学生活文化学科 教授
- 基礎演習 2（生活心理専攻 2 年生） …………… 10
作田 由衣子 本学生活文化学科 准教授
- 基礎演習 2（幼児保育専攻 2 年生） …………… 12
渡辺 敏 本学生活文化学科 准教授
- 「生涯発達心理学研究室」の紹介 …………… 14
塚原 拓馬 本学生活文化学科 准教授
- 卒業論文 …………… 16
大澤 朋子 本学生活文化学科 専任講師

■実践入門セミナー（一年次前期 必修科目）

本学生活文化学科 教授 島崎 あかね

本学では、新入生に対して『実践女子大学の学生として学んでいく上での必要不可欠な基本的知識や技能を身につけること、また社会について視野を広げて卒業後の将来について考えること』を目的とした「実践入門セミナー」を開講しています。高等学校までの学びを基礎として、各学科の専任教員が担当し、少人数のセミナー方式で実施しますが、生活文化学科では新入生全員を四つのグループに分け、生活心理専攻と幼児保育専攻の両専攻の学生が専攻の垣根を越えてディスカッションができるようにしています。この授業は基本的に対面授業で実施していますが、昨年度からの新型コロナウイルス感染症の影響によって、一部はオンラインでの実施となりました。今年度の「実践入門セミナー」は、表に示したように履修指導から始ま

表：2021年度 実践入門セミナー授業内容

回	内容
1	専攻別ガイダンス、履修指導
2	自校教育、校歌指導、学修指導
3	自己紹介大会
4	フレッシュマンセミナー
5	図書館ガイダンス
6	手紙文、挨拶文、メール文の書き方
7~10	レポートの書き方
11	キャリアガイダンス
12~14	プレゼンテーション資料の作り方と発表会

では、クイズに解答したり、楽器を演奏したり、心臓マッサージの体験をしたりと、各グループが協力し合って課題に取り組む姿がみられました。参加した新入生からは、「学内を探索する間に、グループの人といろいろな話ができ」「教室の場所がわかった」「学内にお茶室があることを知ることができて楽しかった」など楽しく活動ができたという声が聞かれました。

一方、新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、五月の授業はオンデマンドで行うことを余儀なくされ、学生は配信した課題に基づいて、各自で手紙文や挨拶文、メール文の書き方、レ



フレッシュマンセミナーで実施したスタンプラリーのMAP

り、自校教育、図書館ガイダンス、手紙やレポートの書き方などで構成しました。高校の授業は一時限が五〇分ですが、大学の授業は一〇〇分(二〇二二年度から)と高校に比べて倍の授業時間となるので、まずは大学の生活に慣れることを中心とした内容から始めました。四月当初は新型コロナウイルスの感染状況が少し落ち着いていたこともあり、入学式も実施することができましたので、オリエンテーションや自校教育などを対面で開催することができました。その中で四月二二日に実施したフレッシュマンセミナーについてご紹介します。フレッシュマンセミナーは、二・三年生のセミナーリーダーが中心となって、他専攻学生や上級生との交流を目的とした内容を計画し実施していますが、今年度は学内を探索しながら課題に取り組む『スタンプラリー』を行いました。高校までと違って、大学には自分の教室というものはありません。授業ごとに教室を移動することになるので、学内の施設がどのように配置されているのか、教室番号はどのように割り当てられているのか、などを理解しておかなければ学内で迷子になってしまいます。実際に、四月中は自分が行くべき教室の場所がわからず、右往左往している学生が多くみられます。そこで上級生がその点を解消するために、今回のフレッシュマンセミナーでは、学内に設置した六ヶ所のチェックポイントで一グループ七〜八人が協力して課題に取り組みゴールを目指すという内容を企画してくれました。できるだけ日野キャンパス内すべての建物にチェックポイントを作り、キャンパスの隅々まで探索できるように工夫され、それぞれのチェックポイント

ポートの書き方を学び、提出する方法で行いました。この「実践入門セミナー」に限らず、緊急事態宣言が発出されている間は、多くの授業がオンラインで行われていたため、自分を取り組んだ課題がちゃんと提出できているのか、内容は大丈夫なのだろうか、という不安がたくさんあったと思います。学生の方々は課題に真摯に取り組んでくれました。二週目からは、他の人に紹介したい自分の好きな本についてのプレゼンテーションを作成して、最終週には発表会を行いました。それぞれの想いがこもった個性豊かなプレゼンを発表し合うことで、効果的なプレゼンの作成方法を学ぶだけでなく、人に直接伝えることの重要性や対面だからこそ伝えられる想いがあることを体験的に学ぶことができたのではないかと思います。

大学での学びは、より専門的な知識を修得したり、興味・関心のあることを探究していくことが中心となりますが、このコロナ禍において感じたことは、やはり対面で学び合うこと、体験を通して学び・感じるものが次の学習意欲や課題に繋がっていくということです。特に、生活文化学科で学ぶ学生の方々は、将来対人支援にかかわることが多いので、学生時代に知識だけでなく体験や実感を伴う対面での学びを深めておいてほしいと思っています。初年次教育として行われている「実践入門セミナー」ですが、学生同士が主体的に学ぶ場として位置付けながら、これから始まる学生生活をより充実させて、自らの学びを深められるような授業として展開していくことを心掛けていきたいと思っています。

■『基礎演習Ⅰ』(大学一年後期必修科目)における「学びの歩み」とカリキュラムデザインの骨格形成

本学生活文化学科 教授 南雲 成一

「基礎演習Ⅰ」が木曜日一限、一年生の必修科目として誕生したのが、二〇一四年九月であった。この背景には生活文化学科が再編成され、「幼児保育」と「生活心理」の二専攻として新たにスタートを切った学科事情が、深く関連している。

この八年間を振り返れば、第Ⅰ期(二〇一四～一八年度)、第Ⅱ期(二〇一九～二〇年度)、第Ⅲ期(二〇二一～二二年度)に分けてカリキュラムデザインの考察を進めることが、適切であると思う。南雲が担当・担任した第Ⅰ期の五年間は、幼児保育専攻生と生活心理専攻生各五十名、合計百名の大所帯であった。

第Ⅰ期(二〇一四～一八)「基礎演習Ⅰ」のカリキュラムデザインにおいて南雲は、次のように『授業のテーマと目標』を学生に届けた。

☆「基礎演習Ⅰ」は、言語力(話す力・聞く力・書く力・読む力)を中心に実践女子大学生活科学部生活文化学科の学生として「学び」を展開していくうえで必要不可欠な基本的知識と技能を身につけることを目的としています。大学ホームページに示されている「生活科学部の学び」と「生活文化学科の三つの方針」(①アドミッションポリシー②カリキュラムポリシー③ディプロマポリシー)を再度確認してください。特に、生活心理専攻カリキュラムポリシーと幼児保育専攻カリキュラムポリシーの具体化(実践化)をめざします。「基礎演習Ⅰ」

のサブタイトルは、生活文化学科の基礎・基本力の伸長、「言語生活力の基盤整備」です。

当時の後期十五回分の「授業内容」は次の通りである。

☆「基礎演習Ⅰ」は、幼児保育専攻「保育・教育相談の基礎と実際」と生活心理専攻「フィールドワーク」の体験学習を踏まえた「報告発表会」と連動しています。日程時間の相互確認をしつかりと行いながら学習を進めます。

1. オリエンテーション「基礎演習Ⅰ」の学習内容。「愛語と戒語」を中心に、大学生としての言語力を展望する
2. 自己紹介①、具体的な話す・聞く、書く・読むを中心に
3. 自己紹介②、「色紙づくり」と「手作り名刺づくり」
4. 手紙を書く①(暮らしの中の手紙を見つめる。書式の基本に関する学習。手書き硬筆・毛筆の実習を含む。)
5. 手紙を書く②(目上の相手に書く依頼やお礼の手紙。母校や友人・家族に宛てた手紙の実作等。)
6. 説明的文章を中心に読解・要約・批評活動を行う
7. 文学的文章や詩を中心に読解・解説・批評活動を行う
8. 『わたし遺産考』(小論文やエッセーの表現を活用して)
9. 敬語表現の基礎確認(話し言葉・書き言葉の両面から)
10. インタビューの仕方、調査報告の仕方に関する点検
11. フィールドワーク・体験学習会の実践報告会準備①
12. 報告会準備②(一人五分の発表、PowerPointの効果的活用。)
13. 口頭発表原稿の作成。要点・要約を的確に。
14. ハグループ分属。発表・質疑応答を含め持ち時間七分構成。

15. 「基礎演習Ⅰ」まとめ。14&15は二時間連続扱い実施も有り。第Ⅱ期(二〇一九～二〇)のカリキュラムデザインは、田中先生、長崎先生、塩川先生の協働作業で進められた。クラス規模

も改善の手が加えられることになり、三クラス編成となった。ようやく『演習』の内実が整えられて一歩前進となった。しかし翌年は学科事情でやむなく田中先生と南雲の二人が担当することになり二クラス編成とならざるを得なかった。けれども演習内容は改善が加えられ、三クラス→二クラスという変動はあったが、カリキュラムデザインの評価・改善は具体的に進められた。その内容は次の通りである。

☆☆「基礎演習Ⅰ」授業テーマ・本授業では、言語力を中心に、生活文化学科生活心理専攻・幼児保育専攻の学生として今後の学修を展開していくうえで必要不可欠な基本的な言語知識並びに言語技能を確認しつつ、習得していくことをテーマとしている。「授業における到達目標」も明示された。その内容は、言語力(話す力、聞く力、書く力、読む力)を高め、概略次のような力が身につくことをめざす。①論理的な文章を正確に読解できる。②自分の意見、考えを文章作法に則って論理的に表現できる。↓この具体化が次の授業内容である。

1. 本授業で何を学ぶのか
2. 自己紹介文を書く
3. 自己紹介を口頭で行う
4. 文章を書く(手紙文)
5. 文章を書く(メール文)
6. 論理的文章を読む(クリティカルシンキング)
7. 論理的文章を読む(新聞コラムを読む)
8. 論理的文章を読む(小論文を読む)
9. 文章作法について
10. 論理的文章を書く(小論文)

論文) 11. 論理的文章を書く、発表する(小論文) 12. レポートの書き方 13. プレゼンテーションの仕方 14. プレゼンテーションの実際 15. 総括

第Ⅲ期(二〇二一)のカリキュラムデザインは、長崎先生を中心に田中先生、大澤先生、南雲の四人で進められた。「基礎演習Ⅰ」では、念願だった四クラス編成実践が実現する運びとなった。長崎先生からは『演習の特質と役割』を明確に果たせるよう焦点化された「カリキュラムデザイン案」が示された。

具体化された実践カリキュラム内容は、次の通りである。

☆☆「基礎演習Ⅰ」(言語表現とコミュニケーション)「論理的な日本語の読解力と表現」↓授業のテーマ・本授業では、今後の専門科目で必要となる、論理的な日本語の読解力と表現力の習得をめざす。日本語力(コンピテンシー)とは①読み・書きのスキル(論理力・因果関係、接続関係など)と、②読み(書き)のモチベーション(読んで、自分が「そうか!」とわかり、自分の考え、行動が変わる。疑問を持つ・批判する)の両者の相互作用によると捉える。授業の前半には論理学的基礎的な枠組みを用いて、読み・書きのスキルを中心に演習をし、授業の後半には、自分が読みたい文献を探し、それをわかりやすく他者に伝えるための演習を行う。これらによって、読みたい文献を論理的に読み、他者に伝える日本語力を身につけて欲しいと考える。前期「実践入門セミナー」によって図書館の使い方、文献の探し方、レポートの書き方などを習得していることが前提である。

■基礎演習2(生活心理専攻二年生)

本学生活文化学科 准教授 作田 由衣子

「基礎演習2」は、二年生の前期に開講される必修の授業です。幼児保育と生活心理のクラスに分かれていて、大きな枠組みは共通していますが、それぞれの専攻の特性に合わせた内容になっていると思います。生活心理専攻では、二〇二一年度は高橋桂子先生と作田で担当しました。

半期の授業全体の流れとしては、まずは、一年生の時に教わった図書館の使い方や文献の探し方のおさらいから始めて、次に二種類のレポートの書き方を身につけます。最後に簡単なアンケートを実施して、結果をまとめてパワーポイントによる報告資料を作成します。このように、大学生にとって必要なスキルの基礎を身につけてもらうため、様々な内容を半年間でこなしていくてもらいます。

以下では、二〇二二年度に実施した内容について、詳しく説明していきます。

1. 文献研究のレポート

まずは、文献の探し方、読み方、まとめ方を身につけます。二〇二一年度は、テーマを「現代社会においてステレオタイプが引き起こす影響」としました。たとえば、性別に関するステレオタイプは就職などの社会的場面でのような影響を持つのでしょうか。また、周囲の人からステレオタイプの発言を受

その形式を覚えてもらうことが重要です。こちらにも、作田が全員のレポートをチェックしてコメントを返しました。練習のため、ここでは主に形式ができていればOKとしました。

3. アンケート調査の実施と報告

最後に、実際にアンケート調査を行って、その結果を基に報告資料を作成してもらいました。ここでは最初の文献研究のテーマを引き継ぎ、ステレオタイプの影響についてのアンケートを行うことにしました。アンケートの内容として、学生自身に挙げてもらったポイントを整理し、「性別に関するイメージ」と「個人的経験」が「男女平等感」とどのように関係しているのかを調べることとしました。性別に関するイメージは「あなたは、女性には常に守られる存在だと思いますか。」など、個人的経験は「あなたは、女の子らしくしなさいと言われて育ちましたか。」など、男女平等感「あなたは、性別に関係なく平等な教育が受けられると思いますか。」など、それぞれ八項目ずつで構成されました。アンケートには「基礎演習2」を受講している学生自身が回答しました。

回答が集まったら、アンケートの回答データを全員で共有し、平均値を出したり、散布図を作ったりして、結果から何が見えるのかを探ります。結果の一部を紹介すると、個人的経験と男女平等感の間に弱い正の相関が見られました。ステレオタイプに関連する経験が多い人ほど、男性が優遇されていると感じているようです。後はそれぞれの観点から結果の解釈を行い、パ

けることで、心理的にどのような影響があると考えられるでしょうか。そうしたステレオタイプによる影響は、現在、社会心理学などの分野で重要なテーマとなっています。今回、授業で取り上げることで、実際に社会の中で起こっていることを知り、それに対してどのように解決できるかを考えるきっかけとしてもらえればと思います。

まずは新聞記事を検索して実際に起こっていることを知ってもらうとともに、書籍を最低一冊は読んでもらい、レポートを書いてもらいました。提出されたレポートは高橋先生が詳細にチェックして、学生にフィードバックのコメントを送ってくださいました。私も読みましたが、今年度のレポートは力作が多く、なかなか鋭い視点を持つものもあり、全体的に読み応えがあったと思います。

2. データを基にしたレポート

次に、グラフの作り方、読み取り方、グラフを使用したレポートの書き方に移ります。特に生活心理専攻では卒業論文でアンケートなどの量的研究を行う学生が多いため、専門的な調査法などの授業に入る前の準備段階として、この「基礎演習2」で少しずつエクセルの操作などに慣れてもらうという意図があります。

ここでは練習のため、ダミーのデータを使ってエクセルでグラフを作り、調査を行ったと仮定してレポートを書いてもらいました。実験や調査のレポートは決まった形式があり、まずは

ワーポイントにまとめてもらいました。全体としては、文献もきちんと引用して丁寧に作られたものが多く見られました。文献研究と同一のテーマとしたことで、それぞれの調べたことが反映され、厚みのある考察ができた人も多かったと思います。

4. コロナ禍で変わったこと

新型コロナウイルス感染症の影響により、二〇二〇年度と二〇二一年度はオンデマンド形式での開講となりました。例年、エクセルが苦手な学生はデータ整理のところでも苦労するのですが、今回は結構スムーズにいったように思います。まずはオンデマンドで解説して各自のペースで試してもらった後、Zoomを使ってリアルタイムで同じ内容の解説を行い、実際にやってみてわからなかったところを聞きながら補足で解説を行いました。このやり方なら、個人ごとにエクセルの習熟度が違っていても無理なく進められるので、学生たちからも評判がよく、できればコロナが収束しても同じやり方で実施したいと思っています。

オンラインの授業で、気軽に友達と相談できない中で作業で大変だった方もいたと思いますが、その分、学生一人ひとりの頑張りや底力を強く感じた二年間でした。

■基礎演習2(幼児保育専攻二年生)

本学生活文化学科 准教授 渡辺 敏

1. アンケートの集計と表、グラフを用いた記述の学習

幼児保育専攻二年生の基礎演習2(科学的思考とコミュニケーション)では前半の三回を使ってグラフや表の作成とともに、グラフや表をどのように文章の中に記載していくかを学びます。その後、三回の授業で各自調べたいテーマでアンケートを用いたレポートを作成します。例年各自のアンケートをプリントアウトし履修者全員に答えてもらっています。現在はインターネットを使って手軽にアンケートの集計ができますが、幼児保育の四年生が卒業論文でアンケートを取る場合の相手は小学生や保護者である場合が多いようです。このような場合は事前に施設の長である園長先生や校長先生にアンケートの原案を確認していただき、必要であれば修正しなければなりません。そのため授業でも同様にプリントアウトしたアンケートに記述してもらい、手作業で集計します。今年度はこの時期が緊急事態宣言下だったため、オンラインでの授業となりました。実際に全員に配布してアンケートを取ることができませんでした。そこで各自が作成したアンケートを教員がmanabaのアンケートに貼り付け、全員がmanabaを使って四十八種類のアンケートに答えることにしました。答え終わったアンケートの集計は再度、manabaを通して全員に返却し、

2. グループでのテーマ研究

各自がアンケートの作成と集計、表とグラフを用いた記述ができたところで四人ずつのグループを組み、そのグループで研究テーマを決めアンケートの作成をします。ここで前回各自がアンケートを作ってレポートを書いた経験が活かされます。どのような質問をすれば、研究テーマを明らかにすることができるのかを多様な角度から聞けるようなアンケートを作成します。教員からも、最後の研究発表ではすべての質問について発表する必要があるのでは、なるべくいろいろな角度から質問を聞いてアンケートを作成するようにアドバイスをしました。

六月から対面での授業が再開しました。各グループ自分たちが作成したアンケートを履修者全員に配布し記述してもらい、回収したアンケートを手作業で集計しました。集計結果はエクセルを用いて表にし、グループ発表に用いるグラフにしておきました。ここからは各グループが作業しやすいようにmanabaのプロジェクトに各グループを設定しました。グループごとに役割を分担し、アンケート結果



図4. manabaのプロジェクトページ

そのデータをもとにレポートを作成しました。

各自、アンケートの取り方と集計、表とグラフを用いた分析を文章で表し四ページのレポートを書くことができました。

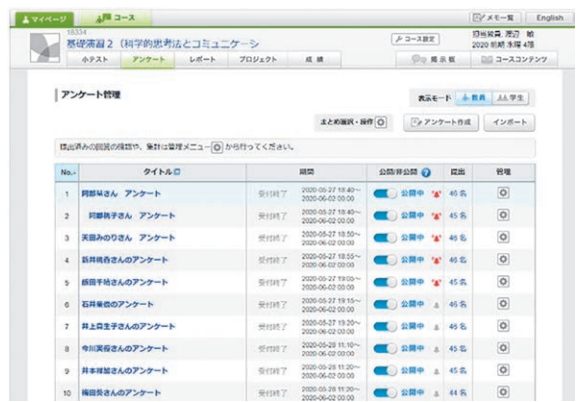


図1. manabaのアンケートページ

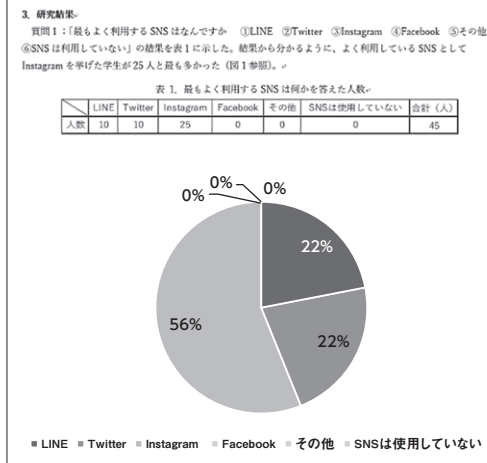


図3. アンケート結果を表、グラフで表したレポート

表1. グループ発表評価用紙

グループ発表	わかりやすい	おもしろい	コメント
1	◎	◎	
2	◎	◎	図が多く使われていてわかりやすく、珍しいテーマで面白かった。
3	◎	◎	2択に分かれる質問が多くあって面白いと思った。これは効果に限る質問なのか気になった。
4	◎	◎	2択になる質問が多く、自分と逆の立場の意見を知ることができて面白かった。

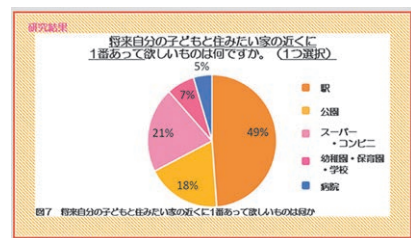


図5. 発表用のスライド

の集計結果やその表やグラフをプロジェクトで共有して最終のグループ発表に向けた作業を進めました。第十二、十三回はグループごとの研究ポイントに

沿った、発表原稿を作って練習に取り組みました。十四回の最終回は各グループ五分以内で発表を行います。発表時間以外も他グループの発表を聞いて評価票にコメントと評価を書き込んでいきます。そして一番、研究内容が面白かったグループを選びました。

3. 終わりに

自分一人でアンケートを集計しレポートを書く時と違って、グループの友達と意見をすり合わせてより良い研究にすることはなかなか難しかったようで、とても疲れたと感想を述べている学生もいました。このような学びの経験を卒業論文作成の際にも活かしてほしいです。

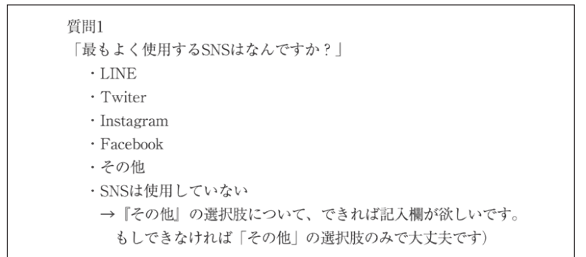


図2. 学生が作成したアンケートの一部

■「生涯発達心理学研究室」の紹介

本学生活文化学科 准教授 塚原 拓馬

社会の変化に伴い、私たちヒトの生涯発達も多様になりました。これまでの伝統的な価値観や経験則だけでは、必ずしも適応的な社会生活が営めるとは限らなくなりました。それは、人のライフサイクルに顕著に表れています。特に青年期以降の人の発達はその人が生きる生活環境、社会構造など外的な影響を受けやすく、その外的環境との関係により、その人が適応的な成長を遂げることができるとか左右されていくと考えられます。

男性は社会的労働、女性は家庭内労働といった役割分業ではなく、誰もが選択的に自身の社会生活とキャリアを構成していくことができるようになりました。しかし、それは同時に生きることの難しさをもたらしているとも考えられます。数多くある人生の選択肢を前に、自分はどうのようなキャリアを選ぶか…、それは意外にも難しいことです。

「生涯発達心理学研究室」では、このような現代的な課題について明らかにし、どのような理解や解決法ができるかを学びます。そして、各自が関心をもったテーマを設定して、調査や面接、観察、文献探究などにより、自分なりの考察を提示していくるように試行錯誤していきます。定型な正解はない中で、「自分はどうか考えるか」を表現していきます。

二〇二一年度はまだコロナ禍にあり、ゼミナールのメンバーで課外活動やゼミ合宿といった体験学習を伴うことはできない

体験と言われますが、このような多様化が進む時代においては、今まで以上に大変な体験過程になるかもしれません。アフターコロナ社会に向けて、どのような社会人になっているか、一生懸命にイメージを凝らします。

ゼミナールは、単に学問的な知識学習を求める時間ではありません。寧ろ、知識学習を通して、学び続けることの大切さを実感できる機会になることが本来の目的であると思っています。



(2021年度ゼミナール)

のが心苦しいところです。その代わり、しっかりと、じっくりと、自身にとって関心のあるテーマ(課題)は何かを考えることのできる時間があります。

その実、ゼミの学生たちは、毎回のゼミナールで頭を悩ましています。それもそのはず。これまでの学習形態とは異なり、自分で課題を設定して、自分で考察し、表現するという、ある種の「創作活動」だからです。保護者や教師から与えられた問題に対して一定の解答を返すという、クイズのような「テスト」勉強ではありません。

その思考の難しさは、ある意味「キャリア選択」の難しさに通じるものがあると思っています。これまでの社会では、決められた一定のキャリアが用意されていて、どう乗っていくかという時代だったかもしれません。例えば、女性は短大を卒業して、一般職になり、結婚退職して…、という路線が主流だったでしょう。

今の大学生の皆さんの進路は様々です。卒業してから留学する人、進学する人、起業する人、結婚する人、家業を継ぐ人など、本当に多様な人生選択があります。その多様性という名の裏には、選択の迷いや苦しみも伴うことがあるでしょう。自分で考えてキャリアを創るといって、正解などない自分だけの課題に直面するからです。

「アイデンティティ」の探索という大事な心の体験は、大学生である今が一番大事な時です。これは、青年だからこそできる

卒業論文という学習課題をこなすことだけでなく、卒業論文を通して、少しでも「自分らしさ」を考える機会になれば有り難いと、陰ながら願っています。

そして、晴れて無事に卒業を迎えられる時を待ち遠しく、毎回のゼミナールを過ごしています。



(2020年度卒業生)

■ 卒業論文

本学生活文化学科 専任講師 大澤 朋子

卒業論文は大学四年間の学びの集大成となる重要なプロジェクトです。学生たちは一年をかけて二万字を超える大作に挑みます。毎年、提出期限が近づくと夜通し執筆に取り組み学生の姿が（送られてくるメールの送受信時刻から）見られますが、書き終えた学生には大きな自信につながることと思います。

卒業論文へ向けた研究がいつ頃からスタートするかはゼミによって異なります。取得する資格によって調査論文の執筆が義務付けられる場合には、三年次までに調査手法を身につけることも求められます。三年次からゼミ内で実験や実践活動を行い、二年をかけて論文に取り組み場合や、二年次に予備論文を書き、四年次に仕上げをするゼミもあるようです。大澤ゼミでは、三年次後期から各自の関心に基づいた文献収集を始めます。資料検索の方法を学び、文献リストを作成し、実際にいくつかの文献を読みながら、卒業論文で取り組む研究上の「問い」を探します。幅広い関心を持つ学生が集まるゼミのため、このとき挙がるテーマのアイデアはとてもバラエティに富んでいます。「社会福祉学研究室とは…？」という疑問がひそかに浮かぶ瞬間でもあります。

このように、研究・執筆の進め方はゼミに任されている卒業論文ですが、今年度は二つ新しい試みを始めました。そのひとつが「卒業論文説明会」の実施です。前期が終わろうとする七

まだテーマがはっきりと定まらない学生もおり、執筆に向けて気持ちを切り替えるのにちょうどよいタイミングだったようです。

もうひとつの試みは、中間発表会の質疑応答機会の拡大です。中間発表会は例年十月中旬に行われ、研究テーマや研究方法、研究の進捗状況を教員や同級生の前で発表する重大イベントです。スーツを着用し、スライドを用いてプレゼンテーションする様子は、社会人への一歩を踏み出したようで頼もしさを感じます。

しかし約百名の学生が半日をかけて発表するため、ひとりあたりの持ち時間が短く、十分な質疑応答の時間が取れないことが課題でした。また四グループに分かれて行うため、教員がすべての発表を聞けないことも課題でした。十月といえはすでに調査・実験を終えている学生、これから実施予定の学生もいます。この段階で研究方法に致命的な瑕疵がないかどうかチェックを受けること、指導教員以外の教員からいつもとは異なる視点の助言を受けることには重要な意味があります。なかには多くの質問が出ることを恐れている学生も見受けられますが、ディスカッションを通じて自身の研究をより深く理解し、改善点を見出す貴重な機会です。

そこで、今年度はラーニング・マネジメント・システムであるmanabaを活用し、発表会後に教員からの質問を受け付ける期間を設けました。発表会当日に時間が不足していたり、発表を聞くことができなかった学生にも質問できるようにしたのです。この試みは、発表会の場では緊張のため満足に回答できなかった

月下旬、論文を執筆する上での心得や、調査・実験を実施する場合の手続きなど、すべての学生が知っておくべきことを、四年生担任からオンラインにて説明しました。



この時期は生活心理専攻では一般企業の就職活動が一段落し、幼児保育専攻では教育実習も概ね終了する頃です。そろそろ調査を実施し本格的に執筆に入ろうとしている学生もいれば、

た学生にも挽回のよい機会になったのではないかと思います。

中間発表会が終わると、いよいよ執筆の大詰めに入ります。楽しい年末年始を迎えられるよう、ゼミごとに設定された提出期限に向けて執筆に取り組み姿が学内のいたるところで見られます。今年度も無事すべての学生が論文を提出し、二月の卒業論文発表会の日を迎えられることを期待しています。



II

初年次教育の学び

- 生活心理フィールドワーク1(2020年度後期) …… 20
水野 いずみ 本学生活文化学科 准教授
- 保育所見学観察実習を経験して
— 「保育・教育指導の基礎」の授業より — …… 22
松田 純子 本学生活文化学科 教授
- 生活文化概論のデザイン …… 24
細江 容子 本学生活文化学科 教授

図3 履修者による報告会でのプレゼンテーション例(福祉領域)

表1 「生活心理フィールドワーク1」概要(2020年度後期)

回	内容
1	ガイダンス・3名の教員による各フィールド別全体事前指導(医療・福祉・教育領域)
2	※福祉領域:映像視聴「はじめての知的障害者雇用—企業は障害者をどのように雇用し、どのように戦力にしているのか—」
3	
4	生活文化学科卒業論文中間発表会について
5	フィールド別インタビューガイド:調整・作成
6	
7	フィールド別・学生相互インタビュー(医療・教育領域では教員へのインタビューも実施)
8	インタビューデータ整理準備:教材を読み、以下の4点を考える ①インタビュー回答の整理をどのように始めたいか ②文章で、具体的な発言の代表例を挙げながら、インタビュー結果についてどのように説明したいか ③表を用いて、インタビュー回答の例を挙げながら、質問や回答の内容を整理して示すために、どのようにしたいか ④インタビュー結果に基づいて考えたことを、図にして分かりやすくまとめるために、どのようにしたいか
9	データ整理の方法:相談・検討
10	プレゼン準備 ①調べ学習:先行研究の活用 ②パワーポイントの作成
11	
12~14	報告会
15	生活文化学科卒業論文発表会について

生活文化学科生活心理専攻では、生活のなかの課題について考える視点や姿勢を身に着けるため、フィールドワークの授業を行っています。そして、事前事後指導を中心としながら、フィールドに出かけることで、校内での授業とは異なる観点から学生の学びを促すことを試みました。一方で、

生活心理フィールドワーク(二〇二〇年度後期) 本学生活文化学科 准教授 水野 いずみ

図1 インタビューガイドの調整・作成(板書)

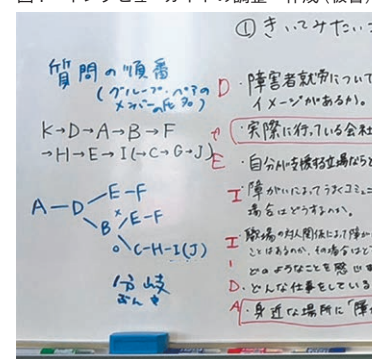
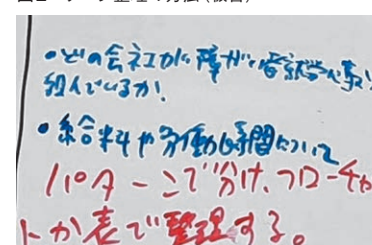


図2 データ整理の方法(板書)



フィールドでの学びをより効果的なものとするため、カリキュラムの再検討を行いました。そのため、専攻スタート当初は、一年次前期からの履修としていましたが、現在は、一年次後期から二年次にかけて開講しています。二〇二〇年度後期の「生活心理フィールドワーク1」では、感染症拡大防止対策もふまえながら授業を計画し、実施しました(表1)。一年生から二年生にかけて、高校までとは異なる大学での学びならではの特徴を徐々に理解し、生活心理専攻で必要とされるアカデミックスキルを身に着けていけるよう順を追って、教員や仲間とともに考えながら、取り組みました(図1・2)。最終的には、それまでの積み重ねに基づき報告会でのプレゼンテーションを行いました(図3)。感染症拡大防止のため、例年に比較して制約のあるなかでの開講となりましたが、学生独自の視点も垣間見られて、教員にとっても様々な学びがあり、次年度につながる内容となったことを実感しています。

■ 保育所見学観察実習を経験して 「保育・教育指導の基礎」の授業より

本学生活文化学科 教授 松田 純子

幼児保育専攻一年生の必修科目「保育・教育指導の基礎」は、保育・教育現場での実地の学習を柱とした授業を行っています。二〇二一（令和三）年度後期は、まだ新型コロナウイルス感染症の心配も残る時期ではありませんが、幼稚園教諭・小学校教諭コース（幼小コース）と幼稚園教諭・保育士コース（幼保コース）に分かれて、それぞれ小学校と保育所での見学観察実習を行いました。ここでは筆者が担当する幼保コースの保育所見学観察実習について報告します。

外遊びの観察のつもりが：

今回の実習先は、近隣のかつて実践女子短期大学の敷地だった場所に建てられた、わらべ日野市役所東保育園でした。ここでは短大グラウンドが、そのまま園庭として外遊びの時間に利用されています。実習にあたっては、少しでも感染のリスクを避けるため、午前中の外遊びの様子を観察させていただく計画を立てました。実習の目的は、①子どもの遊びについて理解を深める、②保育所の遊び環境や保育者の遊びへの関わり方について学ぶ、の二点です。

数回の授業で事前学習を行い、十一月三十日、幼保コース一年生二十九名で実習先へ向かいました。二週間前からの健康観

察や腸内細菌検査など、新型コロナウイルスも含めて感染予防対策を講じた上で、当日は欠席者無し。幸い朝から快晴で、身体を動かすと汗ばむほどの陽気に恵まれました。当初は、子どもたちの遊んでいる様子を遠くから観察するつもりでしたが、園長先生のご厚意で、思いがけず子どもたちと一緒に遊ばせていただくことになりました。

この日、室内での活動が予定されていた五歳児クラスを除いて、〇歳児から四歳児までのクラスの子どもたちが、草木以外は遊具も何もない広大な園庭（グラウンド）に出てきて、一時間あまり本当によく遊んでくれました。園児たちは年齢クラスごとに異なる色の帽子をかぶっており、発達の違いを見るだけでも貴重な機会です。最初はどのようにアプローチしてよいか戸惑っていた学生たちも、子どもに誘われたり、保育士の先生方に声をかけていただいたりして、すぐに交流が始まりました。そして、広い園庭のあちこちで、子どもたちと実習生の会話や笑い声が響き、微笑ましい場面や遊びの展開が見られました。学生たちの表情は、普段の授業中とは比べものにならないほどいきいきとして、子どもたちと遊びの「楽しさ」を満喫しているようでした。学生の一人が実感をこめて「幸せです！」と口にしていましたが、他の学生たちも同じ思いだったことでしょう。

実習を振り返って

実習を終えて大学に戻り、早速振り返りの時間を持ちました。

実習において、体験したこと振り返りは大変重要です。「省察」と呼ばれる作業です。学生たちには、まず用意した振り返りシートを通して、体験したことを思い出し、特に子どもたちの個々の遊びの「楽しさ」について何が楽しいのかを考えてもらいました。このような省察を通して、その時その場では気づかなかったことが見えてくることがあります。また、経験したことや省察したことを他者と話し合うことで、新たな視点や捉え方に気づかされることもあるのです。このような仲間との経験や省察の共有による子どもや保育に対する理解の深化は、保育の学びにおいてとても大切なものであると同時に、大変面白く楽しいプロセスでもあります。

今回の実習では、直後の振り返りの後、さらに次回授業までに、「事例と考察」（心に残る事例を取り上げ、自分なりの考察を試みる）を学生たちに書いてきてもらい、それをもとに再度仲間同士で話し合いを行いました。

以下、学生たちの実習の感想から抜粋した文章をいくつか紹介します。

- ・遊具がない場所で子どもたちが様々な遊びを自分たちで考えて遊んでいることが印象に残りました。
- ・子どもにとつては広い芝生を駆け回るといいうのも遊びの一つになっているのだと実感しました。
- ・一歳児が落ち葉を持って振り回したり、足で踏んで音を楽しんだりしている姿を見て、子どもたちには自然と関わる機会が必要だと改めて認識することができました。

- ・常にしゃがんでいるのは大変だったけれど、（子どもと）立つて話すよりもすぐに心を開いてもらえたような気がした。
- ・「近くに鬼がいる」という設定にして、そこから「どこに隠れるか」や「どうしたら鬼に見つからないか」など、子どもたちなりに考えて、なりきりながらごっこ遊びをすることが楽しいのかなと感じた。：年中（四歳児）の子どもたちが一人ひとりアイディアを出して同じ「世界」で遊んでいることに驚いた。
- ・（二歳児G君と）途中から葉っぱ集めが始まった。：G君は一枚拾ってはその葉っぱを眺め、私に「あげる」と言って、何枚もの葉っぱをくれた。：言葉のキャッチボールはそこまでなかったものの、同じ遊びをすることで、心のキャッチボールができたので仲良くなれたのだと思う。
- ・最後に園長先生がおっしゃっていた「子どもたちの育つ力を信じて保育をする」という言葉がとても印象深かったです。

この実習から子どもたちの力に対し、今まで以上に可能性を感じました。

これから

子どもたちの遊びの「楽しさ」を体験させていただき、学生たちにとつて、この上ない充実した実習となったように思います。このような実習体験の蓄積を経ずして、保育者養成は成り立ちません。この機会を与えて下さった実習園に心から感謝します。そして、この実習で得た学びを、学生一人ひとりが今後の学修に生かしていただきたいと思います。

■ 生活文化概論のデザイン

本学生活文化学科 教授 細江 容子

1. 生活文化の学びと生活文化概論

生活文化学科のウェブサイトでは、「生活文化とは、社会の影響を受けて変容する『人の生活のありよう』です。そして、生活のありように規定されるだけでなく、逆に、『生活のありよう』を形作り、『人が生活している社会』への源ともなるのが、『人の生涯にわたる発達』です。誕生から死—そして世代継承。『人の生涯にわたる発達』へのまなざしを持って生活を探求することが、生活文化学科の学びの基本です。」と述べられている。すなわち、生活文化とは、社会の影響を受けて変容する「人の生活のありよう」と考えられている。

さらに、「生活文化概論」の学びについては「生活・家族・保育・教育・心理・健康の各領域を、概観します。さらに、人が生活している社会の変遷と家族の変容についてふりかえり、将来を予測する上で、そして生涯にわたる発達を保証する未来(ある)の社会を形成していく上で必要となる歴史的視点を養います。」としており、歴史的視点の重要性が示されている。

生活文化学科の学びから考える「生活文化概論」とは、社会の影響を受けて変容する「人の生活のありよう」である生活文化に関して、生活・家族・保育・教育・心理・健康の各領域を概観しつつ、歴史的視点を踏まえた学びの内容と想定できる。

「生活のありよう」の大きな要素である家族は多様化し、人間関係、子どもの育ち、生活の安全など複雑化した社会の中では今日さまざまな課題が発生している。これらの課題について心理的・社会的な視点からとらえ分析し、主体的に解決するとともに、生活の充実向上をはかる能力と実践的な力を身につけることが生活文化学科における学びの目標となっている。本授業では生活・家族・保育・教育・心理・健康に関する知識と技術を身につけることが求められる、生活文化学科教員の専門領域について専攻ごとにオムニバス形式で概観し、四年間の学びの基盤を形成する学びとして講義が構成されている。さらに、この学びにおいて、将来の職業生活に対する意識の醸成も必要となっている。

この各回の講義を通じて学生たちが、身近な生活に関心をもち、多角的な視点で物事を見直すことができ、広い視野と深い洞察力を身につけ、自分の学びたい分野・内容を他専攻との関わりでとらえることができる様に構成されている。さらに、講義を通じ研鑽力を身につけ、人の生活のありように関して歴史的視点を踏まえて学び、様々な事柄に関心を持って取り組むことができるように講義をデザインしている。

したがって、「生活文化概論」の講義は、生活心理、幼児教育の学生全体で生活文化の意味と生活文化学科で学ぶことの意義を理解し、将来の目標と関わらせながら資格取得に関して学びを深め、さらに子どもたちの学びや自己の学びに関して「教育心理学」的視点から理解すると同時に体と心に関して「運動生

2. 新たな時代に向けての教育と学生の学び

文部科学省の「我が国の高等教育に関する将来構想について(諮問)(平成二十九年三月)」では、今後、「一人一人の実りある生涯と我が国社会の持続的な成長・発展、人類社会の調和ある発展のためには、人材育成と知的創造活動の中核である高等教育機関が一層重要な役割を果たすこと」が必要であるとし、「その際、新たな知識・技能を習得するだけでなく、学んだ知識・技能を実践・応用する力、さらには自ら問題の発見・解決に取り組む力を育成することが特に重要である」としている。さらに「自主的・自律的に考え、また、多様な他者と協働しながら、新たなモノやサービスを生み出し、社会に新たな価値を創造し、より豊かな社会を形成することのできる人を育てていくことが必要である」とも述べられている。

急激な時代の流れの中で、人生百年時代を生き抜いていく学生にとっては、自主的・自律的に物事を考え、多様な他者と協働し、社会に新たな価値を創造することのできる学びが重要となる。

「生活文化概論」は一年次の前期に講義が設定されており、上に述べた学びに関する基礎づくりが求められている。

3. 生活文化概論の新たな時代に向けてのデザイン

生活文化概論の授業のテーマは、「高度情報化社会、高度産業社会を生きる学生達が生活文化を理解し、それぞれがより豊かな生活文化を享受し、社会に提供することができる基本的思考を獲得すること」である。社会の影響を受けて変容する「人

理学」や「生涯発達心理学」と通じ全体的な学びを行うことができる様にデザインされている。また、生活心理と幼児教育に分かれそれぞれ学科の異なる教員から講義を受けることで、異なる専攻領域での学びを行うことにより、より広い視点での人の生活のありようをとらえることができる様にも構成されている。

生活文化学科の教員全員からの講義を聴く中で「それぞれの学びと希望進路」として、講義において「コース(プログラム) I 幼稚園 心理専門職」「コース(プログラム) II 保育所 & 施設 一般企業」「コース(プログラム) III 小学校 家庭科」を設定し、学びと将来の職業生活を想定することができる様に考えられている。

最後に個々の学びから将来の職業が想定できるように「それぞれの学びと希望進路等 二年生や三年生参加による」という場面を設け、学生たちが「生活文化概論」の学びを通して将来

の目標と夢を持って学びと関わるることができる様に全体をデザインしている。

Aristoteles の “The roots of education are bitter, but the fruit is sweet,” と云う言葉の様に、「生活文化概論」の学びから、大いなる甘い果実を手に入れてほしいと考えている。



それぞれの学びと希望進路等、2・3年生参加による授業

Ⅲ

学生と学生、 現場と学生をつなぐ

- 生文ランチ会 28
高橋 桂子 本学生活文化学科 教授
- 公認心理師・心理専門職コースプログラムの現在 … 30
長崎 勤 本学生活文化学科 教授
- 実習懇談会 32
井口 眞美 本学生活文化学科 准教授
- 日野市「手をつなごう・こどもまつり」活動報告 …… 34
越山 沙千子 本学生活文化学科 助教
- コロナ禍での就職活動
- ①生活心理
- 就活体験記(インタビューより)..... 36
杉山 雅子 本学生活文化学科 生活心理専攻 4年
- 東京都教員採用試験(小中高・特別支援学校 家庭)
就活報告 38
長田 彩里・佐々木 瞳・寺尾 麻友香
本学生活文化学科 生活心理専攻 4年
- ②幼児保育
- 納得するまで悩むことが大事 39
伊藤 日菜 本学生活文化学科 幼児保育専攻 4年
- 小学校教員採用試験奮闘記 40
岡部 理奈 本学生活文化学科 幼児保育専攻 4年

■ 生文ランチ会

本学生活文化学科 教授 高橋 桂子

「先生、今年も生文ランチ会、開催したいです。いいですか」六月冒頭のゼミの時間、四年生から提案がありました。生活文化学科のメンバーの生活文化学科のメンバーによる生活文化学科のメンバーのためのランチ会で、略して生文ランチ会。上級生が主体となつて運営し、生活文化学科を構成する二専攻、生活心理専攻・幼児保育専攻の垣根を越えて集うことをねらった企画です。数年前からポチポチ始まりましたが、本格的な稼働はコロナ禍のここ数年です。大学の良さは何だろう、それは友達がいること。対面であれメディアであれ、友達の存在を身近に、そしてもっと強く感じていたい。そんな切実な想いから誕生した自然発生的な集いです。

メディア授業から対面授業に戻ったばかりの頃だったこともあり、一回目はZoomで開催することにしました。周知から開催まで時間的余裕がない！という事でLINEによる周知となりました。下級生は一体、何を知らたいだろうか、何がテーマだと集まってきてくれるだろうか、自分が下級生だったら何を知らたいだろう、そうだ、きっと就職活動のこと、前期の期末試験のことやレポートの書き方のことだ、ということ以下記のような周知用ポスターとなりました。

一回目は、想定していたほど集まらなかったようでした。早速、

《生活文化学科》主催
2021年 教育改革経費助成事業
上級生との交流会

時間:11:00~13:00

第2回 6月29日(火)、I111

第3回 7月6日(火)、IV432

第4回 7月13日(火)、IV432

就職活動、どこから手をつけて良いか
分からない...

学生生活、これから始まる定期試験やレ
ポートなどへのアドバイスが欲しい!

単位が取れるか不安...

先輩方のキャンパスライフについて
お話を聞きたい!

企画&運営:高橋研
責任者:阿部有彩・石岡麻奈(高橋研)

上級生たちは、自分たちがコロナ禍で大変な苦労をしたからこそ、下級生たちにキャンパスライフや就活の実際を伝えたい!という熱い想いがあります。しかし、それがどうも今年は上手く下級生に伝わらない、いや、下級生たちが上手く受け止めてくれない、もつといえ、上級生たちの熱い想いを受け止める術を知らない、といった感じでした。教員から声かけしても戸惑っているというか、どう行動したらよいかわからない、自分だけ行動するのも...かといって、誘いあえるような友達はいない、そんな感じでした。「同じ学科の先輩が企画しているイベントだからきっと参考になるでしょう。まずは参加してみたら」と伝えたものの、あまり手応えは

生活文化学科主催
2021年教育改革経費助成事業
《生活文化学科》
ZOOMランチ会

第1回
6月22日(火)
11:00~13:00
企画&運営:高橋研
責任者:阿部有彩・石岡麻奈
(高橋研)

- ・就職活動について
- ・大学生活についての悩み
- ・期末テストについて
- ・レポートの書き方
- ・単位取得について
- ・サークル
- ・日々の悩み
- その他

(参考)
2020年
第1回6/29 12:15~13:00
企画&運営:阿部有彩・石岡麻奈(高橋研)
※ポウティア
第2回7/11 12:15~13:00
企画&運営:阿部有彩・石岡麻奈(高橋研)
※ポウティア

反省会です。Zoomは慣れてきているから操作上の問題ではない、ただだつて画面越しにでも友達や仲間会いたたいはず、研究室のゼミ長を通して宣伝してもらっているはずだがそれが上手く機能していないのだろうか、それとも周知用ポスターが地味だったからか、テーマを書きすぎたかなあ、などなど。出来ることから修正しようということで、周知用ポスターをショートメッセージ風に修正。どうすれば伝わるのだろうか、どうすれば参加してくれるだろうか、先生どう思いますかと、トライ&エラーで取り組んでいる姿をみながら、何とも頼もしく、何とも誇らしい気持ちで一杯になると同時に、次回こそは一人でも多くの学生が集いますようにと、願わずにはいられませんでした。

感じられませんでした。考えてみれば、コロナに直撃された大学二年生は、入学してこのかたずっとメディア授業。ワイワイ・キャピキャピの眩しいばかりのキャンパスライフ、青春といったものを体験していません。こういった環境も、参加意欲を刺激しない、集まりが昨年度ほど増えない、といった事態に影響を与えたように思います。

「先生、私、生活文化学科の一人として卒業したい。生活心理専攻の一人として卒業したくないです。幼児保育専攻の四年生はほとんど知りません。同じ学科なのに、何か損をしている気分です。」

もとは生活文化学科としてひとつの纏まりでした。特長を活かして二専攻に再編成したのですが、確かに、少しばかり両専攻が分離気味で、上手く融合しあえていないかもしれない。この点は教員たちが意識して克服していかなくてはならない重要な課題のひとつ、と考えます。

日々のゼミ活動などを通して、ゼミ学生から教えられることも多い毎日です。生活文化学科を、日野キャンパスを、そして実践女子大学を選んで本当に良かった!と思ってもらえるような「居場所」にすべく、学生・教職員一同、精進していきたいと考えます。

皆様、お気づきの点などありましたら、是非、お知らせください。

■公認心理師・心理専門職コースプログラムの現在

本学生生活文化学科 教授 長崎 勤

実践女子大学生生活文化学科生活心理専攻に、国家資格「公認心理師」受験資格のための学部での科目が設置されて、緩やかな「公認心理師・心理専門職コースプログラム」がおかれて三年が経ち、公認心理師・心理専門職コースプログラム一期生が、今年度三年生になりました。どのようにして、「公認心理師・心理専門職コースプログラム」が進んでゆくか、また心構えなどを紹介します。

「公認心理師・心理専門職コースプログラム」の四年間

- 1) 一年：入学時オリエンテーション・コース希望調査
- 1) 新入生オリエンテーションで、公認心理師の概要を説明します。
- 2) 「公認心理師・心理専門職コースプログラム」「家庭科教員コースプログラム」「キャリア心理コースプログラム」の中から、希望者は「公認心理師・心理専門職コースプログラム」を選びます。
- 3) 前期科目「生活文化概論」の時間に、公認心理師の制度や職業についての説明を行います。

2) 二年：「心理演習」履修説明会↓履修志願票の提出↓希望者多数の場合は選考

二年後期に、三年時に履修する「心理演習」の履修方法についての説明を行います。その際には、以下のような案内を出しています。【本専攻の国家資格「公認心理師」必修科目の「心理

二〇二一年度の「心理演習」では、児童発達支援施設などで働く公認心理師の特別講師に、医療・福祉現場の様子と、四年次の実習に向けた心構えなどをお話し頂きました。また、ロールプレイングでは、検査結果を、保護者に伝える場面を設定し、検査者と保護者の両方の役割を経験し、どのように伝えることが、子供・保護者の支援にとって重要かについて学びました。

(2) 大学院進学のための準備：英語と専門科目

多くの大学院では、英語と専門科目の筆記試験があります。三年次から着実に進学準備を行います。

- a) 英語：短い英文を和訳したり、長文を読んで設問に答えたりなどの問題ですが、「一夜漬け」は効きません。三年次から地道に学習してゆく必要があります。大学の入試問題とは異なり、多くの入試問題は心理の専門的な内容です(辞書持ち込み可のところが多いようです)。ゼミの指導教官の指導の下で、卒論で使う専門雑誌の英語論文をどんどん読んでいくと良いでしょう。自分の語彙力や文法力を適切に判断して、もし、特定の文法に不安があるようでしたら、(例えば、関係代名詞など)そこを重点的に克服することも重要です。専門雑誌を読破しながら、自分の単語帳をつくっていきましょう。

- b) 専門科目：普段の専門科目を着実に理解していけば十分ですが、公認心理師の二十の必修科目に対応したテキストが多数出版されています。そのテキストを自分なりに整理して、一科目一冊のノートを作成していくと良いでしょう。その

演習(三年次)と「心理実習(四年次)」については、文科省・厚労省に、受け入れ承認を得た実習施設について事前届け出をしており、担当教員二名(長崎・塩川)と各施設の心理職についても事前審査・届け出を行っています。そのために「心理実習(四年次)」の履修人数定員は十名以下です。「心理実習(四年次)」は「心理演習(三年次)」を履修していないと受けることができません。「心理演習(三年次)」の定員も十名以下です。そのために、「公認心理師」取得希望者Ⅱ「心理演習(三年次)」、「心理実習(四年次)」の履修希望者数が定員を超えた場合は選考を行います。】

「心理演習」履修説明会に出席した学生は、志望理由や二年前期までの公認心理師科目数を記入する「心理演習」履修志願票」を期限までに提出します。

3) 三年：「心理演習」受講、大学院進学準備、臨床現場の見学やインターンシップ・ゼミ臨床への参加によって、将来自分が働くフィールドを考えはじめる

- 1) 「心理演習」…2)の履修指導によって「心理演習」の履修が許可された学生は、四日間の集中講義によって「心理演習」の授業を受けることができます。「心理演習」では、公認心理師の知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、健康・医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の五分野での心理検査や心理面接について、具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)を行い、事例検討で取り上げます。また、各分野でのチームアプローチや多職種連携、職業倫理及び法的義務への理解について学びます。

際のコツは、「左にテキストのまとめ、右は空けておく」ことです。右には、後からそのページに対応した公認心理師試験の問題と答案を書いたり、他のテキストや専門書の内容で補足します。そのまま国家試験の対策ノートとなります。

(3) 臨床現場の見学やインターンシップ・ゼミ臨床への参加によって、将来自分が働くフィールドを考えはじめる

できるだけ、公認心理師として働きたいと考えているフィールドの見学を、指導教官の紹介などによって行いましょう。また、定期・短期集中のインターンシップを受け入れて下さる現場もあります。これも指導教官のアドバイスを受けながら臨床倫理などに配慮して行います。これらによって、自分がどのような子供や人々の支援に当たるのかについてのイメージを持ち、現場の雰囲気を知ると良いでしょう。ゼミで、見学や臨床を行っている場合には積極的に参加すると良いでしょう。

4) 四年：「心理実習」

事前指導と十日間程度の、保健医療、福祉分野における心理実習の実習を行います。保健医療分野では、知的障害児・発達障害児、精神障害者のアセスメントと支援を学びます。福祉分野では、知的障害児・発達障害児などのアセスメント、療育・保育・保護者支援・地域支援などについて学びます。特に、心理支援におけるチームアプローチや多職種連携、地域連携の実態を知り、公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解を得ます。将来の心理支援の現場で働くイメージを持って、自己のキャリアパスを考えます。

■ 実習懇談会

本学生生活文化学科 准教授 井口 眞美

去る十一月十二日(金)、実習でお世話になっている日野市、立川市内の十二施設(幼稚園、保育園、児童館、子どもセンター)の教職員の方々にご参加いただき、ハイブリッド型の実習懇談会を開催しました。幼稚園、保育園、児童福祉施設の教職員の方々が一堂に会しての実習懇談会は初めての試みでしたが、コロナ禍における実習、更に、アフターコロナでのインターンシップの可能性について情報共有を図ることができました。

(一) コロナ禍における実習の評価(現状、課題、留意事項)

今回参加いただいた保育施設の中には、他の実習先から実習受け入れを断られてしまい、急ぎよ代替実習をお願いした施設もあります。参加者のお話から、コロナ禍においても、保育者を目指す学生たちの指導に尽力してくださった様子をうかがうことができました。以下にその一部を紹介します。

- ・実習生は、健康観察を徹底する、実習前二週間はアルバイトを休む、家族の健康状態にも配慮する等、職員と同様の感染症対策をお願いした。その分、子どもとの関わり等、できるだけ職員と一緒の行動がとれるようにした。
- ・実習生は食事中子どもから離れる、実習に入るクラスを限定する、実習生の動線を少なくする等の感染予防をした。
- ・園内に実習生がいることを気にする保護者もいたが、将来の保育者を育てるという視点から説明し、理解を求めた。

に入学することも多い上、コロナ禍が続き、保育現場でのボランティア経験等が極端に減っています。その結果として、子どもの姿や保育の具体的なイメージが描けなかったり、保育職に就きたいという強い想いが抱けなかったりする学生もいます。そのため、授業の一環として保育現場でのインターンシップを実施し、学生全員が、子どもと関わることの楽しさ、保育の面白さを体験できる場を設けたいと考えています。

【時期】大学二年次四月中旬～五月下旬頃

【回数】毎週火曜日 九時～十二時位、計五回程度

【内容】(二年必修科目「保育・教育指導の実際」の授業の一環)

【人数】幼保コースの学生約四十名を、日野市内の幼稚園、保育園、児童館等に1～2人ずつ配属する(幼小コースでは、小学校での学習支援ボランティアを実施している)。

【内容】インターンシップの活動内容は、遊びや生活場面の補助等、できるだけ子どもと接する機会が望ましいと考えているが、各施設のニーズに即したものとします。

【施設側の指導】学生から保育に関する質問等があった場合には、施設側に対応をお願いしたいが、日誌記録の点検、指導は必要ない。

【本学での指導】

- ・学生は、毎日健康観察票をつけ、健康管理に配慮する。
- ・一年次後期や二年次四月オリエンテーション時に集中的に事前指導を行い、準備を進める。

・コロナ禍で「できない」ではなく、「どう工夫するか」が大切であると考えている。

(二) 来年度の実習について

続いて、来年度の実習における感染症対策(実習受け入れの制限、ワクチン接種等)についてご意見をいただきました。

・(保育施設) ワクチン接種については、どう対応するか

↓(大学) 学生にワクチンを強制することはできない。ただし、来年度の実習では、実習園側に「実習にあたり、ワクチン接種やPCR検査(あるいは実習三日前の抗体検査)を必須とするか」について事前にうかがうことも検討している。その結果、学生のワクチン接種の有無によっては、配属先を一部入れ替える等の手立てが必要かもしれない。

・(保育施設) コロナが不安で、実習をしたくないという学生に関してはどう対応しているか

↓(大学) 感染リスクの高い持病のある学生に対しては、個別に事前面談を行い、意思を確認した上で実習を行わせた。また、実習先でコロナ感染者や濃厚接触者が発生した場合には、学生の意思も確かめながら実習を継続させた。

(三) アフターコロナにおけるインターンシップの可能性

最後の議題として、ボランティアの形で現場に入ることはできないかとの提案をさせていただきました。まだ計画段階ですが、今回ご参加いただいた諸施設の方々からのご意見をうかがった上で実現可能な形を検討する予定です。

【背景】昨今の学生は、乳幼児と接する機会が少ないまま大学

・マナー指導は、礼法等、大学の授業で引き続き進める。

・インターンシップ中に学生に関してお気づきの点があれば、大学までご連絡いただき、実習担当が学生に指導を行う。

・インターンシップ完了後に、日誌記録に基づき、活動を振り返る機会をもち、体験的な学びの定着を図る。

【検討事項】(保育施設からのご意見)

・四、五月は、繁忙期というだけでなく、子どもたちと保育者に関係性を築いていく時期であるため、学生の指導が丁寧にはできないのではないかと懸念がある。

・週に一回、五週間にわたるとなると、感染症対策もあり、学生は長い期間緊張感をもって臨まなければならない。

・ボランティア型よりも、実習内容を明確にした方がよい。

*五日間のボランティア型ではなく、一日目は施設の概要を観察する、二日目は遊びや生活の様子を観察する、三、四日目は日誌を書かず子どもと関わる、五日目は子どもに関わる中で、個別のエピソードを見取り記録に起こす等、課題に即して行動するという実習型の可能性も考えられる。

四 実習懇談会を終えて

今回の実習懇談会は、実践女子大学の学生を好意的に受け止め、大学と共同で指導にあたってくださっていること、そして、コロナ禍の実習において多大なご配慮をいただいていたことに、教員一同改めて感謝する機会となりました。今後、更に保育現場との連携を図りながら、学生の学びを豊かなものにしていくと考えています。

■日野市「手をしなげん・ひのせみひり」活動報告

本学生活文化学科 助教 越山 沙千子

日野市では、日ごろから地域で子どもたちのために活動している市内の団体、行政機関が連携、協働し、毎年秋に市役所前の日野中央公園で「手をしなげん・ひのせみひり」を開催しています。おまつり当日になると、公園内に遊びや工作、展示、模擬店のブースが並び、子どもたちが家族や友だちと、また地域の方々と一緒に楽しむことができます。また、ステージでは子どもたちによる吹奏楽やダンスなどの発表があり、日ごろの成果を発揮しています。本学生活文化学科幼児保育専攻も毎年参加させていただいており、一年生は授業を通して「こどもまつり」について理解し、当日は、駐輪場の整理や児童館のボランティアをし、《そらに響け！ヒノソング》を地域の子どもたちと踊っておまつりを盛り上げます。二年生はけん玉やコマ、大縄などの伝承遊びを担当し、三年生は野菜スタンプやさかなつりなどの手づくり遊びを用意し、子どもたちと遊ぶことを楽しんでいきます。

残念ながら、一昨年は台風十九号により、昨年と今年は新型コロナウイルス感染症の影響により、三年連続で中止となりました。そこで、手をしなげん・こどもまつり実行委員会と日野市子ども部子育て課で話し合い、子どもたちにおまつりの雰囲気だけでも届けたいという想いから、広報誌を作成することになり、幼児保育専攻の学生が関わらせていただくこと

生が描いたものです。学生は、ゴール手前にある、コマからコマへワープするマスの表現に苦労したようです。

広報誌の作成と並行して、一、二年生は授業で《そらに響け！ヒノソング》のダンスを覚え、四、五名のグループに分かれてタブレット端末で撮影をしました。二十一グループのデータを合わせて動画を編集し、子どもたちがすごろくで遊びながら一緒に歌ったり、踊ったりできるよう、マスにQRコードを付けました（二〇二二年二月末までの期間限定）。

できあがった広報誌は、多くの方々からご好評をいただいています。幼児保育専攻としても、日野の皆さんの想いが詰まった「こどもまつり」をつなぐことができ、とてもうれしく思っています。その一方で、おまつりを経験した学生が四年生のみとなり、毎年、授業で写真や映像を使っておまつりの様子を伝えてきましたが、経験していない学生からイメージしづらいという声も聞かれ、おまつりを伝え、つないでいくことの難しさ



すごろく作成の様子



《そらに響け！ヒノソング》動画から

になりました。夏の打ち合わせで、「こどもまつり」に参加している団体の紹介と、子どもたちが自宅でおまつりを楽しめるようにすごろくを作ることが決まりました。まず、実行委員会の皆様の協力を得て、参加団体対象のアンケートを実施し、日ごろの活動と「こどもまつり」での出展・発表内容を教えていただきました。そして、九月下旬から、井口眞美准教授の幼児教育研究室に所属する三年生十名が作成を始めました。学生たちにとっては初めてのことで、戸惑うことも多くありましたが、子育て課や印刷業者、実行委員の皆さんにご意見、ご助言をいただきながら、空き時間に集まったり、夕方以降に連絡を取り合ったりしながら作業を進めていき、十二月に完成しました。

できあがった広報誌は、A2サイズを六面に折ったもので、子どもたちに「こどもまつり」に行ってみたいという気持ちになってもらせるよう、様々な工夫をしました。表面には参加団体の紹介があり、ホームページや動画にアクセスできるよう、QRコードも付いています。限られた紙面の中で、子どもたちに分かりやすく、また親子で読んで知ってもらえるようにするには、どう書いたら良いのかを試行錯誤しながら作る様子が見られました。裏面ではすごろくで遊ぶことができ、マスには実際の「こどもまつり」で楽しめる遊びや模擬店のメニュー、展示、ステージに関する内容が書かれています。また、切り取ってすごろく遊びに使うことができるサイコロとコマも付いており、コマは「のっち」（放課後子ども教室「ひのっち」公認キャラクター）を学

も感じました。

今回、広報誌を作成するにあたり、日野市子ども部子育て課の皆様、印刷業者の皆様、手をしなげん・こどもまつり実行委員会の皆様にご理解とご協力、ご助言を賜りました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。今後、学生たちとともに、日野の皆さんと子どもたちのためにできることはなにかを考え、実践し続けていきたいと思っています。



広報誌を作成した井口ゼミ3年生

(新型コロナウイルス感染症流行下での就職活動について、作田ゼミ四年の杉山さんにインタビューを行いました。)

就職活動を行ってよかったことなどはありますか？

コロナ禍ということで、面接もインターンシップも全てオンラインでした。インターンシップはリモートでのグループワークが多かったです。その際、誰が話をまとめるかなど、グループ内で一人は積極的な人がいないと話が進まないの、私が積極的に行動するようにしました。元々あまり前に出るタイプではないのですが、今が変わることができるチャンスかなと思い、「自分はどう思うけどみんなはどう思うか」などと聞いてみたりしました。積極性が身についたと思います。

コロナ禍でほとんど同じ学年の子たちとは会うことができず、情報共有や相談などがなかなかできない状況でした。ただ、私は寮に入っていたので、寮の友人と情報を共有したり、話し合ったりすることで、より四年生同士の絆が深まったと感じました。

就職活動で苦労したことはありますか？

エントリーシートがなかなか選考に通らなくてくじけてしまったので、もうちょっと頑張ることができたらよかったです。文章構成能力の問題かもしれませんが、特に、堂々と自分のア

ピールを書けなかったと思います。

キャリアセンターの方にはエントリーシートを見てもらい、特に志望動機についてアドバイスをいただきました。もっとアピールした方がいいと言われました。

SPIも全然勉強しなかったもので、散々でした。ちゃんと勉強すればよかったと思っています。早いうちから、一日一問でもやる習慣をつけておけばよかったです。勉強すれば自信にもなるし、選択肢も広がると思います。

コロナ禍で工夫したことはありますか？

インターンシップも面接も全部Zoomだったので、一日の中で午前と午後に入れる工夫をしました。また、隙間時間に自己分析や面接練習、身だしなみなどのチェックを行いました。交通費も時間もおからないのでその点はよかったです。

また、様々な企業のインターンシップにも参加するようにしました。インターンシップ「参加する派」と「参加しない派」がありますが、皆さんはどちらなのでしょう。因みに私は「参加する派」です。参加することで色々な力もつくし、会社の方に顔や名前も覚えてもらえますし、会社の雰囲気などもわかるので。インターンシップではコミュニケーションについてのグループワークや、一からのプログラミング勉強会を受けたりしました。特にグループワークが多かったですね。そこで大きく相槌したり、明るい印象を与える為に照明の位置を工夫したり、身支度を整えたりなど、よい印象を残す工夫をしました。

大学でやったことで役に立ったことはありましたか？

マナー系の授業を履修していたことです。正しいお辞儀の仕方などの礼儀作法が役に立ちました。また、インターンシップ演習という授業では、企業とのメールのやり取りや志望動機の書き方を学びました。その時の資料を参考にしながら履歴書を書きました。自力で全部書くよりは、そうした授業などで実際に先生の話聞いて書いた方が私は書きやすかったです。授業にキャリアセンターの講師の方が来てくださり、対面での面接やリモートでの面接、身だしなみ(髪型、スーツにほこりがついていないか、など)、印象のよい化粧の仕方なども教えていただきました。

後輩たちへのメッセージをお願いします。

三月から情報解禁となるので、その時期までに、自己アピールなど履歴書をどう書くかというイメージを色々と考えておいて、ブラッシュアップしていくの、いいと思います。

応募の際にSPIが必要な企業も結構あるので、どうしても入りたいところがあれば早いうちに勉強に手を付けた方がいいと思います。普段から勉強しているならそこまで焦らなくていいかもしれませんが、後でやろうと思っても間に合わなくなってしまうので。

そろそろ対面での選考が増えてきたので、マナーを身につけておくこともおすすめます。身だしなみをきちんとすること

と、礼儀作法は大事です。

知り合いが対面の面接に行った際、建物内のどこでやるかわからず、受付で面接会場を聞いたところ他の人たちがぞろぞろと後ろをついてきたことがあったそうです。他の人たちはわからないことがあっても自分からは聞けず、人に頼ってしまったみたいです。知り合いは受かったそうですが、他の人たちはわかりません。疑問に思ったことは自分から質問することが大事ですね。

あとは、選考に落ちてしまっても落ち込まずにその企業に縁がなかったと思うこと。私は「自分を落とされた企業は私の魅力がわかっていない」と思うようにしました。もっと私の魅力をわかってくれる企業があると。しかし反省も含めて、次に活かせるようにしていくことが大事だと思います。落ちたらネガティブになっってしまうかもしれませんが、無理してポジティブになる必要はないと思います。落ち込みすぎると戻れなくなる場合があるので、自分の魅力をわかってくれる企業はある!と思うといいかもしれません。

就活は強気で行きましょう！

(インタビュー…作田由衣子)

■東京都教員採用試験

■(小中高・特別支援学校家庭)就活報告

生活文化学科 生活心理専攻 四年

長田 彩里・佐々木 瞳・寺尾麻友香

私たち長崎ゼミの三人は、令和三年度東京都教員採用試験に合格しました。佐々木瞳は小中高家庭科教員、長田彩里と寺尾麻友香は特別支援学校の家庭科教員です。感謝を込めて、私たちが教員になろうと思ったきっかけ、勉強方法、後輩の皆さんへのメッセージをお伝えしたいと思います。

1. 教員を目指したきっかけ

私は高校生のころ、家庭科のA先生に憧れて教員を目指すようになりました。A先生のように生徒の心に寄り添える教師になりたいと思い、心理学を学びながら家庭科の教員を目指すことのできる、実践女子大学生活文化学科に入学しました。三年生になり長崎ゼミに所属して自閉症児と関わったことから、特別支援教育に興味を持つようになりました。そしてその中で、人の成長に関わることに喜びを感じたことで、特別支援学校の教員を志すようになりました。(寺尾麻友香)

2. 勉強方法

二年生の二月ごろに参考書や問題集を購入し、時間がある時に読むことを心がけていました。本格的に勉強を始めたのは、特別支援学校の教員になることを決意した三年生の冬ごろです。四年生の春から教職センターの対策講座に参加し、重要ポイントを押さえることが苦手なので、講義で要点をしっかりと頭に入れて、自宅で過去問を解くという勉強をしました。教職教養は、隙間時間にアプリを使用しながらクイズ形式で勉強しました。専門教養の家庭科は、対策講座に参加し、教職センターの先生にご指導いただきながら勉強をしました。また、特別支援教育の対策は、ゼミでの臨床活動や授業で学んだことをまとめ、過去問を解きながら、足りないところを覚えていきました。二次試験の面接や集団討論は、教職センターの先生や実際に教員として働いているOBの方々、ゼミ指導教官の長崎先生、井口先生にご指導いただきながら対策をしました。二次試験対策を始めるのが遅くなり、自信を持って試験に挑めなかったことが反省点です。勉強をしていく上で、一緒に受験する仲間との存在はとても大きかったです。三名とも同じゼミだったため、空き時間に集まり、時間が足りないことに焦っては、励まし合いながら試験勉強できたことが合格につながった理由の一つだと感じます。(長田彩里)

トを押さえるながら知識をまとめていきました。私は黙々と暗記をすることが苦手なので、講義で要点をしっかりと頭に入れて、自宅で過去問を解くという勉強をしました。教職教養は、隙間時間にアプリを使用しながらクイズ形式で勉強しました。専門教養の家庭科は、対策講座に参加し、教職センターの先生にご指導いただきながら勉強をしました。また、特別支援教育の対策は、ゼミでの臨床活動や授業で学んだことをまとめ、過去問を解きながら、足りないところを覚えていきました。二次試験の面接や集団討論は、教職センターの先生や実際に教員として働いているOBの方々、ゼミ指導教官の長崎先生、井口先生にご指導いただきながら対策をしました。二次試験対策を始めるのが遅くなり、自信を持って試験に挑めなかったことが反省点です。勉強をしていく上で、一緒に受験する仲間との存在はとても大きかったです。三名とも同じゼミだったため、空き時間に集まり、時間が足りないことに焦っては、励まし合いながら試験勉強できたことが合格につながった理由の一つだと感じます。(長田彩里)

3. 後輩の皆さんへのメッセージ

教員採用試験本番に挑むまでの間はとても長く感じられ、時には勉強することが嫌になって辛い時期もありました。しかし、それら乗り越えた今、あの時必死に勉強して良かった、途中であきらめなくて良かったと思います。後輩の皆さんも自分の夢をかなえるために、自分のベストを尽くして頑張ってください。応援しています。(佐々木瞳)

■納得するまで悩むことが大事

生活文化学科 幼児保育専攻 四年 伊藤 日菜

私は、三、四年次に実習を行った保育園を運営する法人から内定を頂きました。選んだポイントとしては、「指示語・命令語・禁止語・否定語を使わない」「子どもに相談する保育」という保育方針に共感し、自分に合っていて保育がしやすいと感じたからです。その方針に沿った保育を意識して実習を行うことで、子どもの考える力を実感したり、穏やかな園の雰囲気を感じたりして、「自分はこういう保育をしたいのかもしれない」と思うようになりました。

実習園を決めるときには、自分はどんな保育をしたいのか、どんな園が理想なのかも分からない状態でした。初めての二週間の参加実習ということもあり、通いやよさを軸に考えて決めていましたが、その実習を経て、少しずつ自分の理想の保育が見えてくるようになりました。しかし、実習を経てすぐに就職を決めたわけではありません。

私は、この法人が運営する四つの園で、園見学、卒論アンケートの調査依頼をしました。それと並行してその法人とは別の保育園でアルバイトをしていました。アルバイト先の保育園はリトミックや食物栽培に力を入れており、また違った園の雰囲気や子どもたちの姿を見ることができました。ベテランの保育者が多く、学ばせて頂くこともたくさんありました。どちらの園もとても魅力的で、実習先の法人にするか、アルバイト先の保

育園にするか悩み、なかなか判断がつきませんでした。そこで、この法人が運営する四つの園の中で園見学をさせて頂き、興味をもった二つの園で保育のボランティアを行いました。その結果、園の雰囲気や方針に沿った保育の仕方や声掛けの仕方の良さを改めて感じたことが、最終的な決め手となりました。

このように私は、三年次の実習を終えたときから、一つの法人が有力候補になっていました。しかし、すぐには決めず、ボランティアやアルバイトを通して他の園も見えて様々なことを感じ、「やはりここがいい」と思えるようになりました。じっくり悩んで決めたため、様々な園を見て自分で納得してから決断することとは大事だと実感しています。一般企業や企業系の保育の就活より時期が遅いため、焦りや不安な気持ちになったこともありましたが、実習、アルバイト、園見学という様々な視点から園を見て、比較して考えることは今しかできません。その意味で、良い経験ができたと思います。

四月から保育者の一員として気を引き締め、「自分のしたい保育」「なりたい保育者像」を頭に入れながら、たくさん学び、吸収し、頑張りたいと思います。

○ 小学校教員を希望したきっかけ

私が小学校教員を目指したのは、小学校での教育実習がきっかけです。三年生の十月に母校にて実習を行いました。初めて実際に子どもたちの前で授業を行うことに不安や焦りがたくさんありました。私は第五学年を担当し、約一か月の中で子どもとたくさん関わり、授業もたくさん行わせていただきました。授業を行う中ではつまずくことや、子どもを待たせてしまうことが多く、授業を行うことの難しさを感じました。また行った授業の反省や次の日の授業展開を考えること、授業の予行練習、宿題の丸付けなど実習生が行うことは教員の仕事の半分にも満たないですが、うまくこなすことができず深夜まで準備をする日も多くなり、教員という仕事の大変さを実感しました。実習の最終日には、子どもたちがお別れ会を開いてくれました。そこでは一人ひとりが手紙を読んでもくれるというサプライズがありました。手紙には「岡部先生の授業とても楽しかったです。」「岡部先生は素敵な先生になれると思うので、大学でも頑張ってください。」「またいつでも会いに来てください。」「など子どもたちの温かい言葉で溢れていました。私は手紙を読んでもらっているとき、自然に涙ができました。教員という仕事の一番のやりがいはこちらにあるのだと実感しました。実習を振り返ると楽し

かった瞬間や頑張ろうと思えた瞬間には必ず子どもたちがいました。子どもの成長に寄り添い支えていくことができる教員という仕事に強く惹かれました。そして小学校教員採用試験を受験することに決めました。

○ 教員採用試験対策について(四月)

私は三年の十一月ごろから教員採用試験の対策を始めました。初めは教職教養に関するテキストを書店で購入しました。通学時間が一時ほどあったので、電車の中で赤シートを使い内容を覚えることから始めました。周りに教員採用試験を受験した先輩がいなかったため、ゼミの先生や実習でお世話になった友人などにアドバイスをいただきながら一次試験の勉強を進めました。年明けからは周りの友人も就職活動を本格的に始めており、とてもいい刺激をもらい本腰を入れて勉強することができました。春休みは同じゼミの友人と学校でモチベーションを高めながら勉強するなど気持ちを切らさないように意識しました。しかし春休みの中盤には新型コロナウイルスの影響によって大学構内に学生が入ることができなくなっていました。それによって同じゼミの友人とも一緒に勉強できない状態になってしまいました。アルバイト等もあまりできなくなっていました。自粛生活のストレスから勉強することが苦痛に感じることも多くなりました。そこで私は教育実習のときにもらった手紙を読み返すことで気持ちを高めていました。教員を目指した根本の気持ちを思い出すことでやる気を保つことができたと思います。

○ 教員採用試験対策について(七月前半)

教員採用試験では、大学推薦枠で受験しました。川崎市の大学推薦枠の受験方法は一次の学科試験の代わりに、大学の推薦状と八百字の小論文の試験がありました。一次の学科試験が免除になることから大学推薦での受験を選びましたが、推薦をいただくからには合格しなければいけないというプレッシャーを強く感じました。推薦では大学三年間の学業成績(GPA)が必要となります。三年間真面目に取り組んできたことが活にいかせることはとても嬉しく感じました。推薦枠が必要となる小論文については二次試験でも小論文試験があるため五月から対策を始めました。教員採用試験などで問われやすいテーマについて試験のある七月までに三十テーマほど書きました。そのたびにゼミの先生に添削してもらい書き直しを行いました。何度も書くことで構成等も自分の中に型ができ、試験日には自信を持って臨むことができたと思います。川崎市では一次試験日に、二次試験の配点内容である小論文の試験があったため、七月までは小論文に絞って対策を行いました。

○ 教員採用試験対策について(八月)

二次試験では場面指導と面接がありました。特に面接は配点割合が高かったため、力を入れて取り組みました。まず初めに自分の教職に対する気持ちや自己分析結果を、ノートに箇条書きで書き出しました。面接では暗記したことを話すあまり

印象が良くないという指導をいただき、キーワードを頭に入れて話すために自己分析を行いました。話す練習ではゼミの先生に何度も面接練習を行ってもらったことや、自宅で鏡の前で話す練習などを行い、簡潔に自分の伝えたいキーワードを話せるように練習しました。簡潔にまとめることが一番難しく苦戦しましたが、同じく教員採用試験の対策を行っている学科の友人と意見共有やお互いにアドバイスをしながら数をこなしていく中で、少しずつ自信を持つことができたと思います。場面指導ではテーマが十個提示されており事前に指導方法を考えることができました。実際に児童役を学科やゼミの友人にやってもらうことで時間配分や問いかけの言葉等を考えることができました。また大学の黒板のある教室を借りて何度も練習し、その様子を動画に撮りました。動画を観て客観的に自分を見ることで少しずつ形にしていけることができたと思います。

○ まとめ

私が教員採用試験を通して大切だと感じたことは、不安を自信に変えていくことです。教員採用試験は初めての連続でも不安がありました。私はその不安を、これ以上できないというところまで対策をすることで自信に変えることができました。このように、自分に自信を持つことが合格へと繋がったのではないかと思います。四月からはこれらの経験を生かして少しでも子どもの笑顔を増やせる教員を目指していきたいです。

実践女子大学 生活文化フォーラム 第26号

2022年2月24日発行

編集者 生活科学部生活文化学科

発行者 (ホームページ <https://www.jissen.ac.jp/learning/hles/seibun/>)

〒191-8510 東京都日野市大坂上4-1-1

TEL 042-585-8918

FAX 042-585-8919

実践女子大学ホームページ <http://www.jissen.ac.jp>

〔編集企画〕協力・印刷所

日野テクニカルサービス株式会社

〒191-8660 東京都日野市日野台3-1-1

TEL 042-586-5062

FAX 042-586-8944